



Photo by Stanly Abraham

日米親善「第九」

満席の会場



指揮/平井秀明 独唱/佐竹由美 (Sop.), フランチェスカ・ルンギ(Alto),
ポール・ウィリアムソン(Ten.), 三浦克次(B-Bar),
管弦楽/ニューヨーク祝祭管弦楽団 合唱/ベートーヴェン記念特別合唱団
合唱指揮/辻秀幸 主催/一般社団法人 国際親善音楽交流協会

指揮者・平井秀明が、
カーネギーホールで
鮮烈デビュー!!

チェコ・ヴィルトウオージ室内管弦楽団首席客演指揮者として国際的に活躍し、国内外各地で再演を重ねる自作オペラ『かくや姫』、『小町百年の恋』、『白狐』の作曲でも知られる平井秀明が、2013年12月26日、ニューヨークの殿堂カーネギーホールで鮮烈なデビューを飾った。2800席の大ホールを埋め尽くした聴衆は熱狂的な拍手とスタンディング・オベーションで応え、公演は大きな成功を収めた。オバマ大統領外交政策顧問・国務次官補、各国大使ほか要人も来場し、名実ともに「日米親善コンサート」として、両国の演奏家たちが心を一つに、友好関係を促進する意義深い公演となった。

ニューヨーク・カーネギーホール公演

「ニューヨーク・コンサート・レビュー」

〜ジェフリー・ウィリアムス氏評より転載

「ニューヨーク祝祭管弦楽団は当公演のためにアメリカ全土の精鋭演奏家から選抜して結成された。全体的な演奏は洗練されアンサンブルは目を見張るほどに統率されており、あたかも長年に渡り、ともに活動をしているかのように感じられた。作品冒頭のトレモロから、スケルツォで炸裂するティンパニー、3楽章の崇高なアダージオそして大作の最終楽章まで、極めて満足のいく演奏であった。

ベートーヴェン記念合唱団は、「第九」の歌唱経験が豊かな日米の歌手で構成され、その経験は堅実な演奏に示されていた。バス・バリトンのソリスト、三浦克次は、大胆な響きで大ホールを容易に満たす力強い声で突出し、ソプラノの佐竹由美の声は情熱とともに舞い上がり、テノールのポール・ウィリアムソンとアルトのフランチェスカ・ルンギは、著しい才能により、質感を豊かにした。

マエストロ平井は特に見事だった。暗譜で指揮をしながら、不断のエネルギーと強靱な集中力とともに、楽譜への深い知識を示した。彼はダイナミックで、自信に満ちていた。私がこれまでにこの作品を生演奏で聴いた最高の一つであり、聴衆から与えられたスタンディング・オベーションに正に値する演奏であった。演奏者全員へブラボー!!

「ニューヨーク・カルチャー・エグザミナー」

〜ミラ・ホーヴァー氏評より転載

「表現力豊かで活気のあるオーケストラの存在、特にその指揮者のマエストロ平井とともに、コンサートは急速に高いエネルギーレベルに達し、維持されていた。終演後、聴衆の反響は非常に長く、感極まるもので、その多くは、ベートーヴェンの交響曲第9番への見事で、深遠な知識と解釈とともに、暗譜で指揮をしたマエストロ平井へ向けられたものであった。マエストロ平井は、ニューヨーク祝祭管弦楽団との傑出した仕事を認めた約3000名の聴衆の前に、目覚ましいカーネギーホール・デビューを飾った。」